

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第28回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2013年1月30日(水) 13:30~16:00
2. 場 所 日本原子力発電(株) 本社第4,5会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木(主査), 渡邊(副主査), 三山(幹事), 広木, 矢野, 下家,
山下(猿渡代理), 臼井, 上坂, 萬年, 大城戸, 木谷, 山田, 新井,
皆川, 一森, 松本(松浦代理), 遊佐, 中野(19名)
(欠席委員) 大木, 橘高, 望月(3名)
(常時参加者) 鈴木, 舘, 田畑, 本田, 中川
(傍聴者) 木村, 松藤, 伊藤
4. 配布資料
資料P14SC-28-1 第27回PLM分科会議事録案
P14SC-28-2 PLM実施基準2012年版(追補3)の発行
P14SC-28-3 本格改定の課題整理表
P14SC-28-4 PLM実施基準の改定案
P14SC-28-5-1 経年劣化メカニズムまとめ表の確認状況
P14SC-28-5-2 耐震安全性評価の実施方法の改定方針
P14SC-28-5-3-B BWRの経年劣化メカニズムまとめ表詳細版の意見対応案
P14SC-28-5-3-P PWRの経年劣化メカニズムまとめ表詳細版の意見対応案
P14SC-28-5-4 経年劣化メカニズムまとめ表詳細版の気付き事項対応案
P14SC-28-5-5 経年劣化メカニズムまとめ表(追補2)の正誤表案
P14SC-28-5-6 経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版の変更点一覧表案
P14SC-28-5-7 経年劣化メカニズムまとめ表の改定方法の変更案
P14SC-28-5-8 経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版の意見対応案
P14SC-28-5-9 経年劣化メカニズムまとめ表詳細版案
P14SC-28-5-10 経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版案
P14SC-28-6 専門部会、標準委員会コメント対応案
P14SC-28-7 PLM実施基準本格改定のスケジュール
(経年劣化メカニズムまとめ表案P14SC-28-4-9,10は、メールにて回覧。)

参考資料

- P14SC-28-参考-1 第20回システム安全専門部会議事録(案)
- P14SC-28-参考-2 第51回標準委員会(SC)議事録(案)
- P14SC-28-参考-3 I-GALL 表
- P14SC-28-参考-4 I-GALL AMP

P14SC-28-参考-5 Plant Life Management Model for Longer Term Operation of a Nuclear Power Plant

5. 議事

会議に先立ち、出席委員は19名で、定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-28-1)

幹事より、第26回 PLM 分科会議事録(案)が紹介され、一部誤記の修正を加えることで承認された。

(2) PLM実施基準2012年版(追補3)の発行 (P14SC-28-2)

2013年12月13日に追補3が発行されたことが報告された。

(3) PLM実施基準の改定案 (P14SC-28-4)

・ 本体

評価対象機器

本文中では明確に記載できる従来通りの機器とし、解説にて対象機器に漏れがないよう抽出することを規定し、今後の新規制にも対応できる内容とした。

→法律条項の番号が変わっても趣旨が分かるよう、条項の中身等を記載できないか、検討することとなった。

評価対象期間

学会標準として評価期間を20年と規定できるのかというコメントを受け、最低限必要な評価期間を規定し、実際に評価期間を何年とするかは事業者の判断とする案を報告した。

→2F1では40年の期間を想定して評価を行っている実績もあり、60年以外の選択肢を増やす必要はある。

→これまでは60年を想定して評価していたことを解説として記載することを検討することとなった。

長期停止中プラントの技術評価

長期停止中プラントの技術評価の前に長期停止中以外のプラントの技術評価に関する記載を追加することを、検討することとなった。

・ 附属書C

C.6フレッキング疲労

解説図C.6.2中に△の凡例を加えた案が確認された。図中の記号説明で白抜きと黒抜きの説明の記載位置を、一番下に変更することとなった。

C.5熱時効

修正案が報告された。

・ 附属書D

修正案が報告された。

・その他

日本原子力技術協会の名称が変更されているため、原子力安全推進協会に変更することとなった。

(4) 経年劣化メカニズムまとめ表の確認状況 (P14SC-28-5-1)

2013年版経年劣化メカニズムまとめ表の確認作業が終了したことが報告された。

(5) システム安全専門部会及び標準委員会コメント対応案 (P14SC-28-6)

下記の議論を踏まえ回答案や規格案を修正し、メールにて配布しコメントを募ることとなった。

専門部会でのコメント対応案

基礎ボルトや容器の管台など統合する案について、様々な使用環境（評価条件）があるものを統合可能なのかというコメントがあったが、評価条件はまとめ表で取りまとめている機器の部位に想定される経年劣化事象に影響を与えるものではないため、問題ないとする対応案が報告された。

→意見聴取会では地震荷重だけではなく様々な議論がされているため、その中から地震荷重について挙げたことが分かる表現を検討することとなった。

→まとめ表は想定される経年劣化事象をとりまとめたものであり、評価条件の相違による健全性評価への影響を考慮することについては本文で規定することで、専門部会回答案を作成する。

標準委員会のコメント対応案

○IGALL

・現在はIGALL委員がドラフトを持っている状況であり、正式に発行されるまでは情報として取り扱えない。

・AMP及びTLAAからPLM標準（附属書C）へ反映すべき情報がないか確認することとなった。

→IGALLに係る日本の作業会メンバーにIGALL反映の可否を確認することとなった。AMP及びTLAAの確認方法を検討し、各委員に確認依頼を行うこととなった。

○新規制における運転期間延長の議論

分科会は規格策定が目的であり、認可の仕組みに係る議論はPLM分科会では対応できるものではなく、PLM分科会への課題ではなく、標準委員会での意見として整理することとなった。

(6) エキスパート幹事会からの要望事項

上坂委員よりエキスパート幹事会から、今まで高経年化技術評価を行っていないプラント運転開始後30年より前のプラント固有の機器や、今後新規制対応で保全に反映すべき機器が保全に追加されるが、PLM評価が行われないとまとめ表には反映されないため、エキスパート幹事会からまとめ表に反映しやすい仕組みが構築できないか、

という PLM 分科会への要望が報告された。PLM 分科会で対応可能か検討できるようエキスパート幹事会から検討案を提示することとなった。

6. 今後のスケジュール等

次回の専門部会及び標準委員会で中間報告できるか検討し、確認のメールを各委員に送ることとなった。改定案はメールで配布、確認することとなった。

次回分科会は 3 月 29 日に開催を仮決定し、正式に決定したら場所などメールすることとなった。(後日、(社)原子力安全推進協会第 3,4 会議室で開催することが決まった。)

以 上